



# FUTABA JOURNAL

静岡市葵区追手町10-71  
静岡雙葉学園  
新聞部  
電話(054)255-0305  
印刷所 ササキデザイン社

## ～創立120周年～ 学園の日

今年、静岡雙葉は創立一二〇周年を迎えた。五月三十日の学園の日には、その記念として富士山静岡交響楽団とのハレルヤコーラスや一二〇周年の記念として制作された学年章が配布された。



▲オーケストラとのハレルヤコーラス

### ミサ

五月三十日(火)、午前中に学園の日のミサと式典が行われた。創立一二〇周年である今年、例年通り講堂ではなく静岡市民文化会館にて盛大に祝われた。

ミサでは、お招きした横浜教区の梅村昌弘司教様から、過去に関わった子供達を例に、愛のある価値観、考え方についてお話をいただいた。式典では、創立一二〇周年記念のロゴマークの表彰が行われた。最優秀者である酒井菜穂里さんにはニコラ・バレ賞が、優秀者である永真季さん、梶山莉実さん、山下緩夏さん、赤阪玲菜さんにはマチルド賞が贈られた。

多くの人が関わった今回は、一二〇周年を祝うにふさわしいものだった。

### 音楽会

午後に行われた音楽会は、「Light of the Road」の荘厳な演奏で幕を上げた。今年の音楽会は富士山静岡交響楽団の方々によって計六曲が演奏された。目の前で演奏されている様々な楽器のハーモニーに、生徒は圧巻されている様子であった。

三曲目に演奏された「ハレルヤ」では、全校合唱の美しい歌声がホールに響き渡った。この曲は例年入学式で中学生によって歌われていたが、新型コロナウイルスの影響で三年間歌われなかった。「コロナ禍後の一つの機会として、この歌をもう一度全校で歌いたい」と思っていました。と語ったのは音楽科の中川先生。

ハレルヤコーラスに込めた思いについて、「歌うことは倍すること」という言葉があります。今までの一二〇年間、たくさんの方がこの学校のために尽くしてくださいました。目に見えない祈りや力にも支えられてきたと思います。色々な経験を重ねながらここまで来ることができたことに感謝を伝えたいです」と語った。



▲120周年記念品の学年章

### 120周年記念品

静岡雙葉創立一二〇周年の記念品として学年章とクッキーが配付された。そこで担当の数納先生と

## 遠足

●中一●  
中一は、のんびりパーク(豊橋総合動植物公園)に行った。

現地では一六人で行動した。レッサーパンダやサボテンなどを観察していると、自然と班員との会話が弾んだ。

お楽しみのお弁当の時間ではお互いの事をより知ることができ、皆に笑顔があふれていた。



▲お弁当前で笑顔を見せる中一

●中二●  
入学して約一ヶ月後の行事で、それぞれが打ち解けることができ、大切な思い出となった。



▲アスレチックに挑戦する中二

中二は、浜北森林アスレチックと浜松市楽器博物館へ行った。

アスレチックでは、班で協力して40種類の遊具に挑戦した。中には、水の上を通るものやスライダーのように速さがあるものもあり、苦戦しながらもやり遂げた。

博物館には日本に無い楽器が多く置かれており、体験コーナーでは初めて出会う楽器を楽しんだ。中二になり初の学校行事で学年の仲を深めた。

### 中三



▲各々アクティビティを楽しんだ

中三は、本栖湖キャンプ場に行った。

午前中の自由時間には各自ボートやカヌー、サップなどを楽しんだ。本栖湖は透明度が非常に高く、美しい景色も楽しむことができた。

昼食は各班でバーベキューを行った。配られた食材の他にも各自持ち寄った野菜などを焼き、焼きそばやポップコーン、焼きりんごなどを作る様子も見られた。

●高2●  
高2生は伊豆市にあるサイクルスポーツセンターとめんたいパーク伊豆に行った。



▲三島スカイウォークを渡る高2

高2生は伊豆市にあるサイクルスポーツセンターとめんたいパーク伊豆に行った。

サイクルスポーツセンターでは班ごとカレー作り挑戦した。薪を組み立て、約三時間でグルメに水族館、歴史探訪など、江の島電鉄を利用して市街を散策した。最後には鎌倉大仏殿に集合し、慈愛に満ちた大仏を背にクラスで撮影した。バスの中では鎌倉の歴史の解説やイントロクイズなどが行われ、和気あいあいとした時間を過ごした。



▲完成したカレーを前に笑顔を見せる高2

●高3●  
高3生は鎌倉、江の島へ行った。班ごとに計画を立て、約三時間でグルメに水族館、歴史探訪など、江の島電鉄を利用して市街を散策した。最後には鎌倉大仏殿に集合し、慈愛に満ちた大仏を背にクラスで撮影した。バスの中では鎌倉の歴史の解説やイントロクイズなどが行われ、和気あいあいとした時間を過ごした。



▲大仏の前で班で記念撮影

高3生は鎌倉、江の島へ行った。班ごとに計画を立て、約三時間でグルメに水族館、歴史探訪など、江の島電鉄を利用して市街を散策した。最後には鎌倉大仏殿に集合し、慈愛に満ちた大仏を背にクラスで撮影した。バスの中では鎌倉の歴史の解説やイントロクイズなどが行われ、和気あいあいとした時間を過ごした。

高3生は鎌倉、江の島へ行った。班ごとに計画を立て、約三時間でグルメに水族館、歴史探訪など、江の島電鉄を利用して市街を散策した。最後には鎌倉大仏殿に集合し、慈愛に満ちた大仏を背にクラスで撮影した。バスの中では鎌倉の歴史の解説やイントロクイズなどが行われ、和気あいあいとした時間を過ごした。

川崎先生にインタビューを行った。

Q1 企画の時期。  
A1 昨年の秋冬頃からです。

Q2 なぜ記念品を作ろうと思ったのか。  
A2 今年は学校創立一二〇周年というお祝い的一年に何か記念に残るものを生徒たちにとの思いで作成しました。

Q3 記念品のデザインについて。  
A3 クッキーは、校章と一二〇周年記念ロゴを使いました。

学年章は、生徒の皆さんが受け入れやすいよう従来の学年章のシンブルさを守りました。一二〇



▲120周年記念品のクッキー

周知という年に巡り会えた嬉しい気持ちを感じてもらいたいと考えました。各学年の二色の組み合わせは、微妙な明度と色相にこだわっています。「120th」の文字の形も柔らかい感じにしてほしいという先生方のご意見が多く、何度も調整を重ねました。生徒の皆さんに雙葉を作り上げる喜びを持って歩んでほしいです。



静岡雙葉が創立一二〇周年を迎える今年、その記念の特別企画として、生徒達自身実践してみたいプランを出し、話し合う「私たちの雙葉夢プラン challenge」が実施さ

れた。

生徒は事前に一人三つのプランを考えて、班ごとで話し合った。有益性、獨創性、実現性、雙葉のミッションの四つの観点にあつた個性のあるプランをそれぞれが持ち寄り、意見交換を行った。

班内で話し合いを行った時には、どのプランが今回の企画にふさわしいのか、そして静岡雙葉にとって有益なのかについて、積極的に意見が交わされた。最後には、班ごとに出

一面担当 由依  
二面担当 穂香

## 石の声

先週末は「黄色い物探し」に励んだ。三ヶ月ぶりに再会する友人へのプレゼントを探していたのである。彼女の好きな色は黄色。プレゼント選びは難航したが、黄色という色は元気をもたらえる色であるように思う。これは色の力なのか。▼実際色によって膨張あるいは収縮して見えることがあるように、色は人の心の働きに影響を与えているという。様々な考え方があがるが、例えば赤色は情熱や愛情、緑色は安らぎや平和を感じさせる。青色は知性や誠実を表し、本校創立一二〇周年の記念ロゴマークの基調にもなっている。ロゴマークを制作した酒井菜穂里さんは、新聞部の取材に対し「雙葉生の凛とした姿をイメージした。」と語っていた。▼また、色のイメージは国や文化によって異なることがあるという。同じ赤色を見て、愛を感じる国の人であれば、危険を感じる人もいられる。多様性が色彩感覚にも及ぶことは興味深い。▼日本では明るさや幸せを与えるイメージのある黄色。彼女の住むシンガポールではどのようなイメージがあるのだろうか。常に明るく、前向きで黄色がびっぴりな彼女。姉妹校から来校する私のバディに、プレゼントを渡す日が待ち遠しい。



# 炎天下の戦い 総合優勝は南組

六月七日(水)、雲一つ無い青空の下体育祭が行われた。今年度は四年ぶりに通常通りの体育祭が行われ、みんなでジャンプ、二人三脚などの競技が復活した。また、全学年の保護者が来場可能となった。  
(総合順位) 一位 南組 二位 西、北組 四位 東組



▲南組の勝利に抱き合う

**中一**  
中一は「ウェーブ2023」を行った。二人一組で縄を持ち、四〇メートル先のコーンを回る。そしてクラスメイトの足の下に素早く通し、縄を跳んでつなげていく競技だ。皆が跳びやすいスピード、高さを見つげ出し、息を合わせて通り抜ける練習を何度も重ねた。  
中一にとつて初めての体育祭。各クラス、お互いに応援合して高めた団結力を皆が実感した一日となった。  
(結果) 西南北東

**中二**  
中二は学年種目として「台風目」を行った。一つの棒に三人でつかまりコーンで回って次の組へ繋ぐ。この競技は、単純な走力だけでなく連携も必要となる。  
コーンを回る際に中心に寄りたり、棒をパスする際の力加減に気を付けたりと小さな工夫をどのクラスも行ってた。全員がそれぞれ力を合わせ



▲コーナーで差をつける!!!

**中三**  
中三生は「たらいにトライ」を行った。勝利を手にしたのは南組。ボールの投げ方や受け取り方を研究し、ボールを落とす時間をロスすることのないようにしたことが結果に直結したという。ボールは片手で持ち腕を振る、たらいには確実にトライするなど様々な心がけが南組を圧



▲台風目目で優勝した南組

**高1**  
高1生は玉入れを行った。本番までの練習では玉放物線で意識して投げたり、自分特有の投げ方を研究したりし、少しでも多く入れられるよう工夫した。当日、風の影響を受けて玉が思うように入らなかつたクラスも、仲間同士で応援し合うなど繋がりを確認できた。一位になった北組に作戦



▲たらいにボールを届ける中三生

**高2**  
高2生は「二球入魂みこし」を行った。手を横に大きく広げ、上の大玉を安定させたり、バトンを渡す時やコーンを回る時にペアで息を合わせたりするなど工夫を凝らした。  
当日は強風により、なかなか大玉が安定せず転がってしまうなど苦戦す



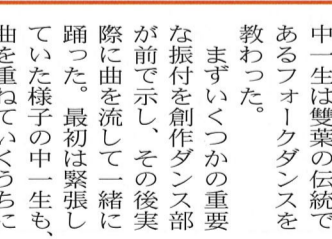
▲全力で玉を投げる

**高3**  
高3生は各クラスで作ったオリジナルTシャツを着て「綱取り」を行った。  
走る速さに応じて人の配置を考えたり、取り合いになった際に緩急をつけ相手を動揺させるなど工夫を凝らした。  
試合は総当たり戦で行われた。西組は全ての試合に勝利し、一位を勝ち取った。  
(結果) 西北南東



▲コーンを回る高2南組のアンカー

**中一三交流会**  
五月十一日(木)、七限のLHRにて中一三交流会が行われ、中一は雙葉の伝統であるフォークダンスを教わった。  
まずいくつかの重要な振付を創作ダンス部が前で示し、その後実際に曲を流して一緒に踊った。最初は緊張していた様子の中一も、曲を重ねていくうちに緊張がほぐれ笑顔になっていった。その後は中三生から手紙とオメダイがプレゼントされた。  
中一は思わぬプレゼントに嬉しそうな様子であった。  
中三生はこの日まで、お昼にフォークダンスのDVDを視たり学年で練習を行ったりしていた。中三生にとつても、学年の垣根を超えた交流は良い思い出となった。



▲伝統のフォークダンス

**編集後記**  
今年新聞部に入部しました。新聞部が作った新聞を読んで、生徒が活き活きと活動している文に心魅かれて入部しました。これからも全校生徒の皆さんが読んでいて楽しい新聞を作っていきたいです。よろしくお願ひします。  
W・K

▲激しい綱の取り合い

**理事長杯リレー**  
体育祭の最後を飾った「理事長杯リレー」。中一から高3の選手が組ごと学年順にバトンを繋いだ。リレーではバトンゾーンでバトンを渡せないという失格になったり、バト



▲理事長杯で優勝した南組

ンを落とすしてしまうと時間のロスになってしまう。走る速さだけでなくスムーズなバトンパスも重要だ。選手は、体育祭前の放課後や当日の朝、どのチームもバトンパスの練習を重点的に行っていた。  
本番、順位は何度も入れ替わり、手に汗握るレースであった。アンカーにバトンが渡ると、声援は大きくなり、一位でゴールテープを切った南組は、大いに湧き上がった。  
(結果) 西南北東

午前部の最後に「クラス対抗リレー」が行われた。各クラスから、四名の代表が選ばれリレー方式でバトンをつなぐ種目だ。  
バトンをいかに速く正確に渡せるか工夫してい



▲高2クラス対抗リレーで勝利した北組

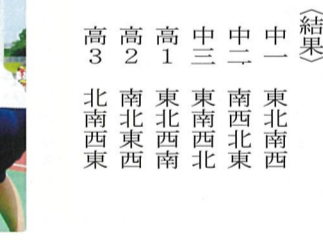
**クラス対抗リレー**  
たり、他クラスとの距離の縮め方を考えたり選手たちは工夫をしていた。リレー選手が観客席の前を通過すると応援の拍手や歓声が会場に贈られた。コロナウイルスが「五類感染症」になってから初の体育祭。例年に比べて、一層熱のこもった応援がゴールテープを切った選手たちを、包みこんだ。  
(結果) 中一 東西南北  
中二 西南北東  
中三 西南北東  
高1 西南北東  
高2 北東南西  
高3 西南北東

体育祭の競技にも及ぼした感染症の影響。今年度、復活した競技も多く「みんなでジャンプ」もその一つだ。感染症の影響を受けていた頃は、密を避けるため「みんな8の字」として行つて



▲高3クラス対抗リレーで1位となった西組

いた。中一から高1が初めてとなるため難しい部分もあつたが、各クラス工夫を凝らしていた。例えば跳ぶ人の並び方、十人を超える人が一列に並んで跳ぶクラスもあれば、二列になって跳ぶクラスもある。どちらがクラスに合うかが試行錯誤を繰り返した。二分間いかに集中して跳ぶかがこの競争の鍵。本番では、息を合わせて跳べた回数練習を大きく上回り、喜びを噛みしめる姿も多く見られた。

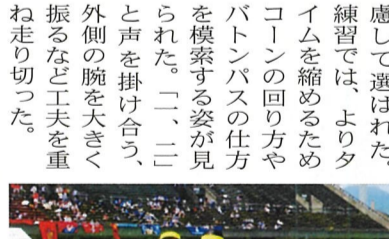


▲息の合ったみんなジャンを見せる高2南組

**二人三脚**  
今年度は三年ぶりに二人三脚が行われた。二人で息を合わせて走ることが重要なため、ペアは五メートル走の記録や身長などを考慮して選ばれた。練習では、よりタイムを縮めるためコーンの回り方やバトンパスの仕方を模索する姿が見られた。「一、二」と声を掛け合う、外側の腕を大きく振るなど工夫を重ね走り切った。



▲息の合った二人三脚を見せる中三南のアンカー



▲激しい綱の取り合い

**中一三交流会**  
今年新聞部に入部しました。以前よりFUTABA JOURNALを読んでいて私も新聞作りに携わりたいと思ひ入部しました。工夫を凝らした写真と共に、読んで楽しい記事を届けたいと思ひます。よろしくお願ひします。  
K・H

新聞部に入り、二ヶ月が経ちました。高校生として新たなスタートとして頑張っていきたいと思ひます。新入部員としての仲間との交友を大切に活動を共にしていきます。  
A・K